



Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

会報

第48号

発行日 2014年(平成26年)2月15日

認定特定非営利活動法人 日本雲南^{れんぎ}聯誼協会

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階

Tel.: 03-5206-5260 / FAX: 03-5206-5261

Email: yunnan@jyfa.org URL: http://www.jyfa.org/

【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室

Tel.: +86-871-63311468 / FAX: +86-871-63320658

f http://www.facebook.com/NPO.JYFA @jyfa

ブログ 雲南の郵便屋さん

検索

編集・発行人 初鹿野恵蘭

印刷協力 昭和情報プロセス(株) / (株)技術評論社

デザイン 編集工房山路屋

雲南から謹賀新年



雲南大学外国語学院東語系
饒瓊珍先生

新年の挨拶

2013 年が去り行き、新しい一年を迎えてくる際に当たって、目を閉じてまもなく去り行く旧年のことを振り返ってみると、まるで昨日のこのように一々目の前に浮かんできました。そ

の中でもっとも印象的なことは去年の 10 月の末頃に日本雲南聯誼協会によって雲南大学日本語学科の四年生に行われた日本文化についての講座でした。その講座は 2 日間にわたって同聯誼協会の滝澤崇さんがなさってくださいました。ここで再び講師の滝澤崇さんをはじめ日本雲南聯誼協会の方々にお礼を申し上げます。

2 日間の日本文化の研修は時間的に短かったですが、日本語を専攻して勉強している学生にとって、とても有意義なことだと思います。なぜなのか、学生たちは日頃テキストを中心に日本語や日本文化などを勉強していて、日本人と付き合うチャンスも少ないし、日本文化といってもテキストから学んだことがあることはありますが、あまり抽象的で、完全に理解とは言えないでしょう。よく耳にする言葉の一つで「百聞は一見にしかず」とおり、何事も自分の目で見て自分の肌で体験してはじめて分かるし、理解も深くなると思います。今度の日本文化の研修は学生にとってはいい勉強になったばかりではなく、日本文化への理解も深まったと思います。

新しい 2014 年に日本雲南聯誼協会は日本と中国、特に雲南との友好の絆として、雲南で日本語を専攻している学生が生の日本語と日本文化を勉強する一つの窓口として、引き続き活躍していただきたいと願っております。

以上を持ちまして新年の挨拶といたします。ありがとうございます。



雲南師範大学外国語学院・日本語科
白蕊先生

2014 年のご挨拶

みなさま、あけましておめでとうございます。新年を迎えるにあたり、2013 年を振り返ると、実りの多い年と言えると思います。

2013 年 5 月には、初めて日本雲南聯誼協会と提携関係を結ぶことになりました。それ以来、中日大学生の友好交流の中身を更に充実させ、両国の若者の相互理解を一層深めて行くように沢山の交流計画を作成し、実行してきました。それらの交流に参加でき、協力し合うこともでき、これより光栄のことはありません。

民間友好は中日関係の重要な礎です。日本雲南聯誼協会が中日友好交流に積極的に取り組み、架け橋の役割を十分に発揮されたことに対し心より感謝申し上げます。

新しい年に貴協会の事業が持続的な発展を遂げ、友好の継承、持続的な中日友好事業に引き続き貢献されることを期待し、我が日本語科は聯誼協会の皆様と協力し、中日民間交流と人文交流を促進し、各分野の中日友好協力関係の新たな発展を着実に推進していくように頑張ります。

2013 年は、興奮に満ちた一年でした。そしてその興奮は今も続いています。このような興奮は、私たちの仕事の大きなエネルギー源となります。私たちはこうした経験を今後の中日交流に生かし、あふれる情熱をもって 2014 年を迎えています。日本・雲南聯誼協会のみなさま、および関係者の方々のご協力に改めて御礼を申し上げますとともに、みなさまの新たな一年が素晴らしいものとなりますよう、心よりお祈り申し上げます。



「滴水穿石」

「雨垂れ石を穿つ」という言葉があります。中国語では「滴水穿石(Shuǐ chuan shí)」と言います。「わずかな水の雫でも、絶えず落ちていれば岩に穴をあけるほど大きな力になる」という意味です。私と姉がまだ幼い頃、「何事も根気が大切よ。『滴水穿石』の精神を持つてね」と母からよく言われました。努力を続ければ、困難なことも成し遂げられる、と。

17 年前、雲南省で起きた大地震を機に私は、山岳地帯の苦境に生きる子供たちが平等に教育を受けられるようにしたい、という願いを抱きました。それを実現することは簡単なことではありませんでしたが、日本雲南聯誼協会の粘り強い支援によって、これまでに 1 万人余りの児童が就学の機会を得、また少数民族の女子学生にも高等教育を受ける門戸が開かれました。

「滴水穿石」、本年も皆様のお力添えを頂きながら、「雨垂れ石を穿つ」信念を持って、皆様と共に次世代の子どものために活動が続けて行きたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

日本雲南聯誼協会
理事長 初鹿野恵蘭



雲南大学滇池学院・日本語科
高明先生

あけましておめでとうございます。

皆さまには、すがすがしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年も相変わらず日本雲南聯誼協会が雲南省の各大学や高校で多彩なイベントを開催しました。

2013 年 5 月に「第 1 回雲南大学生フォーラム」、6 月に雲南省 3 大学で開催された「第 2 回日本文化理解研修」、9 月に「日雲大学生交流会」、また昆明女子高校での「春蕾クラス日本語授業のアシスタント」などの活動のおかげで、日本語専攻の学生は日本語を活用することができて、大きな収穫となりました。

この一年間、雲南省の教育支援や中日文化交流活動に対して、数多くの日本の方々や日本雲南聯誼協会の方々にご多大なご支援やご協力をいただき、この場をお借りして、感謝の意を表したいと存じます。

2014 年も引き続き、皆様よりのご支援やご協力をいただきますようお願い申し上げます。多種多様の活動を通して、両国国民の友好の絆を強く代々に伝えていきたいと考えております。雲南の日本語教師の私どもも、そのお手伝いをできるよう、一生懸命頑張りたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本年も皆様にとりまして、健やかで幸多き年でありますように、心からお祈り申し上げます。学生のみなさんがよい成績が取れるようにお祈ります。

(以上、すべて原文のママ)



昆明市女子中学校校長
史雲波先生

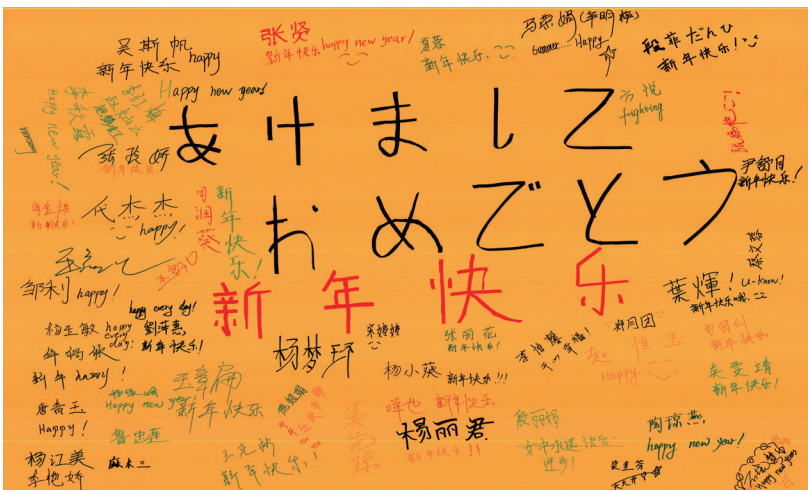
日本雲南聯誼協会のみなさま

1997 年、全国婦人联合会と中国少年兒童基金会が「春蕾計画」を提唱し、雲南省においても、辺境少数民族の優秀な女性の育成を目的とした春蕾高校クラスが省の婦人联合会と婦人兒童基金会によって昆明市女子中学校内に設置されました。雲南省春蕾高校は省内の少数民族地区に住む貧しい女子生徒、貧困や障害などの困難がある家庭の子女を対象としており、120 の地域の 26 民族に恩恵が広がっています。

設立以来、皆様のご支援を続け、春蕾生のための「春蕾橋」を必死に築いてくださいました。日本の思いやりある方々は春蕾生の学業を助けてくださっただけでなく、手紙のやりとりを通じて相互理解を深め、清らかな友情を育みました。また、優秀な春蕾生を日本や上海での活動に参加させ、生徒たちの志や野心、社会への報恩や貢献の心を大きく鼓舞してくださいました。日本雲南聯誼協会の思いやりある皆様のご寄付や無私の貢献に、心から感謝申し上げます。春蕾生が学業を全うし、健康に楽しく成長することができるのは皆様のお陰に他なりません。皆様、ありがとうございます！

大きな愛の種は、いつか必ず芽吹くでしょう。愛とは人にとっての春風であり、生命の源です。愛は心の砂漠を潤し、死神すらも寄せつけません。どうか愛のバトンリレーがさらに続いていきますように！友好の花が満開になりますように！そして、皆様が健康で、お幸せでありますように！

(翻訳：東京本部)



覚えての「ひらがな」でメッセージを書いた昆明女子中学校春蕾高校クラス 1 年 3 組の学生

今年も日本国内はもとより雲南からも、たくさんの方々から心温まる新年のご挨拶を頂戴しました。厚くお礼を申し上げます。

出合いは素敵！ 2013年

2013年、たくさんの心強いご支援に支えられて、日本雲南聯誼協会は、日本で、雲南で、上海で、数多くの“素敵な出会い”に巡り会うことができました。その場面の一つ一つ、お一人お一人の笑顔が協会の歴史の1ページに記憶されています。心からお礼を申し上げます。2014年もまたどこかで“素敵な出会い”に巡り会えることを楽しみにしています。

年末恒例のチャリティー忘年会は、今年も120名を超える参加者の熱気で大盛況。



日本



甲州街道の並木が色づき始めたばかりの「八王子いちよう祭り」

11月
○小
○中華人
○全国巡回写
○全国巡回写真展
□日雲大学生交流会
□支援校児童劇公演

10月

9月

8月

7月

6月

5月

4月

3月

2月

1月

12月

11月

10月

9月

8月

7月

6月

5月

4月

3月

2月

1月

12月

11月

10月

9月

8月

7月

6月

5月

4月

3月

2月

1月

12月

11月

10月

9月

8月

7月

6月

5月

4月

3月

2月

1月

12月

11月

10月

9月

8月

7月

6月

5月

4月

3月

2月

1月

12月

11月

10月

9月

8月

7月

6月

5月

4月

3月

2月

1月

12月

11月

10月

9月

8月

7月

6月

5月

4月

3月

2月

1月

12月

11月

10月

9月

8月

7月

6月

5月

4月

3月

2月

1月

12月

11月

10月

9月

8月

7月

6月

5月

4月

3月

2月

1月

12月

11月

10月

9月

8月

7月

6月

5月

4月

3月

2月

1月

12月

11月

10月

9月

8月

7月

6月

5月

4月

3月

2月

1月

12月

11月

10月

9月

8月

7月

6月

5月

4月

3月

2月

1月

12月

11月

10月

9月

8月

7月

6月

5月

4月

3月

2月

1月

12月

11月

10月

9月

8月

7月

6月

5月

4月

3月

2月

1月

12月

11月

10月

9月

8月

7月

6月

5月

4月

3月

2月

1月

12月

11月

10月

9月

8月

7月

6月

5月

4月

3月

2月

1月

12月

11月

10月

9月

8月

7月

6月

5月

4月

3月

2月

1月

12月

11月

10月

9月

8月

7月

6月

5月

4月

3月

2月

1月

12月

11月

10月

9月

8月

7月

6月

5月

4月

3月

2月

1月

12月

11月

10月

9月

8月

7月

6月

5月

4月

3月

2月

1月

12月

11月

10月

9月

8月

7月

6月

5月

4月

3月

2月

1月

12月

11月

10月

9月

8月

7月

6月

5月

4月

3月

2月

1月

12月

11月

10月

9月

8月

7月

6月

5月

4月

3月

2月

1月

12月

11月

10月

9月

8月

7月

12月

2014年1月

○チャリティー忘年会

○町田発国際ボランティア祭「夢広場 2013」

○中華経済研究院で講演

○埼玉県国際フェア 2013

○2013 年度第3 回役員顧問会

○八王子いちよう祭り

□『アジア未来への人材プロジェクト』第2 回日本文化理解研修

○チャリティーゴルフコンペ

○あげおワールドフェア 2013

○さいたま市国際ふれあいフェア

○グローバルフェスタ JAPAN 2013



「小さな壁新聞」多摩第二小学校へ
「小さな壁新聞」南横浜小学校へ
「民共和国建国 64 周年祝賀レセプション」
「真展「笑顔を君に」 in 西尾
「真展「笑顔を君に」 in 半蔵門

立命館アジア太平洋大学の学生サークル「笑 (xiao)」と雲日国際大学生協会の学生が交流。相互理解を深めました。



6 月、200 名の春蕾生徒（うち協会支援生徒 48 名）が卒業。それぞれの「夢」に向かって新たな一歩を踏み出しました。



後期の試験が終わったその夜、春蕾生徒 10 名が駆け足で上海日本人学校高校部を訪問。飛行機の遅延で上海到着が翌日になり疲労困憊しながらも、猛暑に掛けることなく友情を育みました。

春蕾生徒が待ち望んだ日本語教室。およそ 120 名の 1 年生が必死に学びました。

日本文化理解研修

雲南の地で日本語を学ぶ大学生を対象とした「アジア未来への人材プロジェクト」の一環として、2012 年から始まった「日本文化理解研修」の第 2 回が 10 月末に昆明で開催されました。今回は昆明市の 3 大学がこの研修に参加の手を挙げ、延べ 6 日間、総勢約 100 人の学生が日本のビジネスマナーと日本文化の一端を体験しました。

2013 年 10 月 29 日から 11 月 7 日にかけて、第二回『日本文化理解研修』へ行ってきました。今回は雲南大学、雲南師範大学、雲南大学滇池学院の 3 校で研修をしてきました。10 月 29 日に昆明に到着し翌一日を空けて、10 月 31 日より雲南大学外国語学部日本語学科を皮切りに各校 2 日間、延べ 6 日連続の研修でした。

研修初回の雲南大学は、宿泊したホテルから徒歩で行ける距離のため、生活感溢れる街並みを見ながら通いました。校内の一角には黄色に輝く銀杏並木があり、そこがなんと撮影ポイントとなって、多くのカップルや家族連れで賑わっていました。「なぜだろう」と不思議に思っていたら、常春の昆明では黄葉する木々が殆どないので、黄金を思わせる銀杏は大変珍しいのだそうです。

11 月 2、3 日は雲南師範大学呈貢キャンパスへ伺いました。昆明市内から車で 50 分程の新興開発地区にあって、その広さたるや驚きです。校内移動も専用車や自転車を利用しなければならない程のとても広いので



す。キャンパスの中には各学部棟、図書館、学生寮に教師寮、家族寮、体育館、宴会場、郵便局、銀行、コンビニまで備わっていました。会場に到着して 2 度目のびっくり。ここでの研修には、日本語学科以外の学生さんも参加していて、なんと初めての完全通訳付き研修となりました。日本に関心の高い学生がたくさんいます。

研修の最後は雲南大学滇池学院でした。一昨年初めて研修をした大変思い出深い大学です。私たちがキャンパスに到着すると先生方、受講生全員が入り口に整列して出迎えてくれ、大感激でした。

今回の研修は、より実践体験を取り入れようと思い、ネクタイの締め方、名刺交換、模擬面接、日本茶や抹茶の試飲も行ってきました。模擬面接では本番さながらの視点で評価をしました、名刺交換も東京本部で作成した名刺を皆さんに配り、実技研修をしてもらいました。中国の学生にとってネクタイは初体験だったようで、初めて結ぶネクタイにも皆さん楽しく悪戦苦闘していました。日本の茶文化体験として、抹茶と茶筌を持参し実際に点てて飲んでもらいました。飲んだ感想ですか？皆さん複雑な顔付きでした。

今回もたくさんの皆さんのご協力のお陰で無事終了する事が出来ました。「3 校それぞれ個性があって大変楽しかった」というのが私の率直な感想です。ありがとうございました。謝謝。2014 年も行きます。

【文：滝澤崇（ボランティアリーダー）】



2013 年春蕾クラスを卒業した依金翠さんはシーサンパンナ・タイ族自治州勐臘県出身のタイ族。村で初めて高等教育を受ける女性です。帰郷に同行した協会訪問団を村中の人々が歓迎してくれました。



皆様の応援に心より感謝申し上げます

井手窪剛／浦田峯子／遠藤州／下道國／下野雅之／加瀬春雄／加藤毅／歌川榮子／河原美知子／梶山公勇／刈谷桂子／丸藤茂也／久継智弘／宮崎國雄／近田将人／近藤鉦一／桂正徳／原野光子／江川嘉美／荒川一郎／鴻谷光昭／今吉哲見／根岸恒次／佐藤信子／砂沢健／三木秀隆／山本和宏／寺内明子／鹿島茂／七田誠／柴家嘉明／狩野伸洋／出崎克／初鹿野恵蘭／小池和重／小林稔／松尾淳／上原正夫／新木元治／森川弘道／真江／石川景子／石澤久芳／千々岩哲／川口幸二／泉咲雄／浅井美恵子／浅田恭弘／早出昭雄／早川香子／足立幸雄／村田昭二／太田英明／大崎功雄／竹山明／竹本淳一郎／中前幸恵／中村晃章／中村哲／中村有里子／長谷隆夫／鳥羽清弘／田口静子／東良子／萩原光廣／片岡信子／片岡巖／北原茂実／木村哲也／矢田部禎夫／矢野裕美子／鈴木肇／匿名 6 名／チャリティー忘年会にご参加くださった皆様／チャリティーゴルフ会にご参加くださった皆様／イベント会場で募金して下さった皆様／(株)技術評論社／(株)村上製本所／(特活)劇団道化／(学)ラ・サール学園／(株)ビッグメイドミュージック／(株)加藤文明社／(株)完壽堂／(株)(公財)一ツ橋綜合財団／旭ロジスティクス(株)／日本産業投資技術促進(株)／立命館アジア太平洋大学学生サークル・笑 xiao／JR 総連／JR 北海道／JR 北海道労組／日本雲南聯誼協会役員顧問会

25の小さな夢基金

私の故郷



第1回 和麗芬さん …… ナシ族の麗江

協会ブログ『雲南の郵便屋さん』では 25 の小さな夢基金・春蕾生による「私の故郷」をご紹介します。雲南各所から春蕾クラスにやってきた生徒たち一人一人が抱く故郷への思いを今号から会報でもご紹介することになりました。第1回は、春蕾高校生クラス3年生の和麗芬さんの故郷、みなさんもよくご存知、ナシ族の故郷、麗江です。

私の故郷は麗江です。どこよりも神秘的で美しい故郷です。雄大な玉龍雪山の麓、素朴で善良なナシ族の人々が暮らしています。古い歴史をもつ麗江古城、壮大な雪山、そして、ナシ族独自の素晴らしい東巴（トンパ）文化があります。古城の石畳を歩けば、ナシ族の純朴な民族情緒に出会うでしょう。激流渦巻く金沙江（長江）もあります。私の家がある麗江市玉龍ナシ族自治县は四方を山に囲まれ、まさに「山清水秀（山紫水明）」の小さな山村です。地形は自然そのもののなので交通は本当に不便で、小さい頃は山の向こう

に出て故郷を変えることが夢でした。夢を抱いて 10 数年が過ぎてしまいましたが、夢を忘れず努力すれば、いつか実現できると信じています。教育環境もたち遅れています。教育を受けられない子供たちがたくさんいます。春蕾クラスに入学できた私は恵まれた方です。

村の人々は情熱的で人なつこい人ばかりです。暮らしは豊かではありませんが、客人があるときは、普段はもったいなくて自分たちはめったに食べるものがない、貴重なお馳走でもてなします。山に囲まれた小さな村には



ナシ族の情緒が満ち満ちています。暮らしは貧しくても、困ったことがあればみんなで助け合い、隣人同士仲良く生活を共にしています。私は「平凡で質素な生活もまた幸せの一つの形」だと思っています。

これが私の故郷、麗江です。どこよりも神秘的で美しい場所、私が愛する故郷です。皆さんも是非一度お越しください！

【翻訳：栗田久里子（ボランティア）】



新刊書籍のご紹介



『今こそ伝える日中 100 人』（北京大学日本校友会編／白帝社発行／定価：本体 1800 円＋税）

日中両国のさまざまな分野で活躍する日本と中国の一般市民 100 人を紹介したノンフィクション。編者の「北京大学日本校友会」は、北京大学を卒業した中国人留学生を中心に、北京大学に留学経験のある日本人で組織する学友会。

本書に取り上げられている 100 人は、い

ずれも日中友好を心底から望む人々である。が、取材が行われた 2012 年から 13 年にかけて、日中関係は最悪の状況に陥った。その余波を受け、本書の中国国内での出版は見送られた。同校友会副会長の黄怒波氏は「まえがき」部分で「このところ日中の間に摩擦が起きていることは、不快なことである…（中略）…どんなに問題が複雑化しても、どんな困難が立ちはだかるうとも、この本は必ず出版されるべきだ。なぜなら本著の登場人物たちが我々に与えてくれるものは、希望と光なのだから」と記している。読後、あらためてカバーを眺めたとき、『今こそ伝える…』に託された、本書に関わったすべての人々の切実な思いが伝わってきた。もちろん、日本雲南聯誼協会の初鹿野恵蘭理事長もその中の一人として紹介されている。

昆明

「悠とびあ」便り

第5回 葡萄酒大使の新年

現役時代の香港人パートナーから、世界中の直輸入ワイン販売の為、雲南省葡萄酒大使に任命されワイン文化の紹介宣伝活動をしている。毎月第二土曜日の夜は自宅でワインの夕べを開催。中国人、日本人、台湾人、時には米国人、オランダ人等も参加してこの 3 月で一周年を迎える。昨年 8 月には郊外の観光農園内 3000㎡のレストランを貸切り、ポルトガルのワイナリー代表、初鹿野理事長にも参加戴き 88 名のお客様を迎えてパーティを開催することができた。

最近の付き合いは、嬉しいことに“八十后”（1980 年代の世代）の 20 代女性から 30 歳前後の男性達を中心と若返り、先日は 10 年前に雲南師範大学で一緒だった陸さんが、9 年の日本留学（協会東京本部でボランティアも）を終えて昆明へ戻って来た。国と国の代表者は顔も合わせたくないもの同士でも、我々庶民、個人の付き合いは何時の時代も無関係の“悠とびあ住人の街”。白酒（パイジョウ）の国の中年世代成功者たちにはフランス



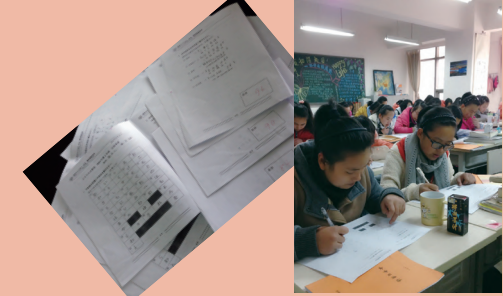
ワインのブランドにこだわる偽ワイン党も多いが、私の“悠とびあ”では本物のワインがわかる若者世代から幅広い年代層に本物のワイン、健康的に愉しむワイン文化を広げて行く。併せて本業のローヤルゼリーの中国内直売計画。本物、安心、安全へのこだわりは世界共通。74 歳の一年も「身も心も健やかに」が信条である。唯今、春節休暇で帰国中。今回の便りは今年の抱負でお許しを！

【南里稔（昆明在住会員）】

雲南支部スタッフ

中洲慶子の昆明レポート

第2クールを終えた「25の小さな夢基金」春蕾クラス日本語授業。去年9月から日本語学科の大学生が教壇に立ち、高校生たちの良きお兄さんお姉さんとなっています。大学生の努力の甲斐あって、教室からはいつも高校生たちの元気な日本語が聞こえてきます。そして、初めて実施した期末試験では、総合平均 81.5 点、なんと 7 人が 100 点満点の成績を修めました。アンケートには「日本文化が好き、もっと知りたい」「大学でも日本語を勉強したい」などと書かれており、やりがいを感じずにはいられません。何よりもこの日本語授業は、日頃大学入試の勉強にプレッシャーを抱える高校生たちが、唯一リラックスして本当に学びを楽しめる場になっている気がします。まだまだ課題は山積みですが、限られた時間の中でいかに有意義に日本語を勉強してもらおうか、日本を身近に感じてもらうか、大学生とともによりよい授業を目指したいと思います。



25の小さな夢基金 今年もよろしく！

2013 年度夢基金生 99 人のほぼ全員にサポーターが決まりました。暖かいご支援に感謝申し上げます。今年 9 月にはまた新たに春蕾生が入学します。引き続き 2014 年度も「25 の小さな夢基金」へのご支援をどうぞよろしくお願い致します。

2014 年前期活動予定	
※○：日本／□：雲南	
1 月	○江戸川総合人生大学講演会
2 月	○ワンワールドフェスティバル出展（大阪） ○全国巡回写真展「笑顔を君に」 in 四万十
3 月	□アジアの豊かなライフスタイル実現研究会 日雲青年交流
4 月	○全国巡回写真展「笑顔を君に」（開催地未定）
5 月	□春蕾クラス「夢は叶う」講演会 □支援候補校視察 ○第 1 回役員顧問会
6 月	□支援校巡回児童劇公演 ○定時総会 □夢基金卒業式参列ツアー □ 25 の小さな夢基金フォーラム「未来を創る」開催
7 月	□夢基金卒業生の故郷訪問ツアー □春蕾クラス・上海日本人学校 高校部交流会 ○全国巡回写真展「笑顔を君に」 in JICA 地球ひろば

事務局から



数年前から賛助会員、そして昨秋から協会事務局にて「ほぼ、常駐でボランティアをしている上原正夫と申します。現在は主として「25 の小さな夢基金」を担当しております。毎日生徒の身上書を読む立場となり、あらためて山間僻地に暮らす少数民族の暮らしの厳しさをひしひしと感じております。年収が 1000 元に満たない家庭がありますし、多くは親が出稼ぎに出ています。その家族の大きな期待を背負い、春蕾生は睡眠時間を削りながら勉学に励んでいます。今年 9 月からの新入生へも皆様からの御支援をお願いいたします。

【上原正夫（賛助会員・ボランティア）】



協会事務局、今年も頑張ります！

編集後記

♥ 2013 年 3 月、昆明女子中学春蕾クラスの日本語教室が紆余曲折を乗り越えてようやく開講に辿り着いた。9 月からは講師役を昆明の 3 大学で日本語を学ぶ中国人学生に引き継いだ。◆教える側の日本語学科生の情熱と学ぶ側の春蕾生徒の優秀さが相まって、期末試験の平均点は 81 点、満点取得者数名という好成績を生み出した。♣今年 3 月からは、前期に受講できなかった春蕾生徒を対象に新たな日本語教室が始まる。講師役の大学生諸君はヤル気満々、準備にとりかかっている。雲南の若者が主体的に動こうとする姿に未来を感じる。【平田栄一】